

まさに青春開花(素晴らしき5団の彩り)

5月19日(日)は体育大会日和に恵まれました。早朝の開会式の時間から多くの保護者、地域の方々に参観いただき開会することができました。体育面での得意、苦手は当然ありますが、各団の掲げる目標を目指して競技を頑張りました。競技に参加できない生徒もしっかり応援していました。赤団、青団、黄団、緑団、桃団の個性が開花した大会でした。今年は応援の部の優勝が「黄団」、総合の部の優勝が「桃団」でした。競技ですので順位はつきませんが、最下位でも最後まで走り抜く姿、ダンスやマ스ゲームでの素晴らしいパフォーマンスは見る人たちに感動を与えました。生徒の皆さん、ありがとうございます。

大会後の各団での解団式も良かったですね。心の優勝旗は全部の団が獲得したと思えました。

「5団で彩る新時代」の始まりです。次も期待しています。



らん 蘭の花の続報

校長室の蘭の鉢の続報です。

5月10日時点では十一輪咲いていましたが、現在は三十六輪咲いています。彩り鮮やかで、毎朝校長室に入る時、気持ちが新たにになります。花の力に元気を貰っています。

ちなみに蘭の花言葉には、「純粋な愛」「幸福が飛んでくる」というのもあるようです。



教育相談が始まりました

大きな学校行事が
1つ終わりました。

新しい中学校生活にも慣れ始めた頃ですが、いろいろな悩みが出始める頃でもあります。学校ではこの時期に教育相談を行っています。「マジッキチェック」で学校や家庭で健康に楽しく生活できているかを生徒の皆さんに自己評価してもらい、それをもとに各学年で教育相談を行います。5/23(木)、5/24(金)、5/28(火)、5/29(水)、5/30(木)、5/31(金)の6日で行います。

悩みや困り事を一人で抱え込んで、頑張っ解決しようとしても、うまくいかない事もあります。誰かに相談する事で解決につながる事がたくさんありますので相談してください。

また、学校には今回の教育相談の他にもスクールカウンセラーの先生(荒尾第三中には2人来られます)の教育相談もあります。こちらも希望する人は受ける事ができますので担任や学年、養護の先生に言ってください。

6月になると、中間テスト、生徒総会、1年集団宿泊、郡市中体連大会があります。学校や家庭で健康に楽しく生活ができるようになり、青春を开花させましょう。



マジッキチェック ()月 ()日

()組 氏名 ()

これは、みなさん一人一人が、学校や家庭で健康に楽しく生活できているかを知るためのものです。みなさんの考えを共有し、自分から先ず自分で気づき出し学校生活について感じていることを、1～4までを1つ、15～18は何かあれば書いてください。いじめがあった場合は具体的に書いてください。

番号	項目	はい	いいえ
1	毎朝、起床を覚えることができました。		
2	毎日、宿題や自主学習などの家庭学習をすることができました。		
3	毎日、十分な睡眠をとることができました。		
4	毎日、朝、授業前に2分の朝礼をすることができました。		
5	自分から速くから大きな声で挨拶をすることができました。		
6	喜ばしめは1度も注意を受けることはなかった。		
7	忘れ物をしなかった。		
8	自分から賛賞し、積極的に授業に取り組みすることができました。		
9	クラスは積極的に発言や授業を受けることができています。		
10	自分の仕事を頑張った。(席・委員会・給食当番・日誌)		
11	積極的に授業準備に協力することができました。		
12	自分のことだけでなく周りのことを考えて行動することができました。		
13	人が嫌がることや嫌なことがあるような言葉は言わなかった。		
14	楽しく学校生活を送ることができました。		
15	いじめを受けている人を見つけた。誰が、どんなこと？		
16	誰かから嫌なことを言われたりされたらした。いじめられた、いじめられたりから逃げた経験がある。		
17	いじめられたりから逃げた経験がある。		
18	誰かに話したり相談したりしていることがあれば書いてください。		

協力してくれてありがとう！

なぜ、勉強は必要？

前回の学校たよりで夜間中学に通う83歳の方の記事
を載せました。「インターネットが普及しチャットGPT

等のAIが発達した現代においては学校で勉強する必要はない」という意見を聞く事がありますが、学校で勉強する大切さが書いてあると思いました。今回も記事を1つ紹介します。

【刑務所内の中学校、3人卒業】

刑務所内に設けられた公立中学校分校の卒業式が5日、少年刑務所の講堂で行われた。卒業生3人のうち2人が出席し卒業証書を受け取った。卒業生の一人は「自慢の母校ができてうれしい。多くの方々の支えがあったからこそだ」と思いを口にした。2人は20代と50代。ともに刑務所内の教室で、1年かけて中学課程を学んだ。1日7時間の授業に加え、3時間の自主学習というハードスケジュールだったが、一日も欠席せずに学び終えた。もう一度学び直したい、人生をやり直したいという動機で入学した卒業生の1人は「勉強してこなかった私たちにとっては大変だった」としたうえで、「自分に負けてたまるかという気持ちでとりあえず机に向かい続けていると、不思議と苦ではなくなった」と回想。また救命救急の特別授業を振り返り、「これまではお金を稼げるか稼げないかで仕事を選んでいたが、消防士さんは一人でも多くの人を助けたい気持ちで働いていると知って恥ずかしくなった。人を助けるための強さや優しさがほしいと思った」と語った。最後に2人は卒業式の歌を歌い、拍手に送られて会場を後にした。

分校は1955年の開設。当時、少年刑務所では受刑者の8割が義務教育を終えておらず、社会復帰を後押しすることが目的だった。現在では全国の刑務所から希望者を受け入れており、これまでに今年度の3人を含めて776人が卒業している。